

事業所名

放課後等デイサービスるび

支援プログラム

作成日

2024 年

1 月

19 日

法人（事業所）理念		「演劇療育」を通して、楽しく自立を促す。						
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ・将来、楽に社会生活を送れるように、集団生活に慣れ、相手に自分の思いを適切に伝えられるなど、人間関係の調整ができるよう、活動を組み立てる。 ・各々の子どもの特性に合った自立を目指すよう、主体的な活動を引き出す。 						
営業時間		平日	14 時	30 分から	19 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり なし
		休日	12 時	0 分から	19 時	0 分まで		
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	「疲れ感や体調を伝える」「疲れ具合から考えて、必要な休憩時間を選べる」「体調に見合った練習回数を決める」など。2時間の演劇活動に、はじめから続けて参加できる子どもは少ない。2時間の活動を続けるためには、どんな頻度で何分の休憩をとれば良いのかなど、実際に体感しながら練習を進めて行く。自分の体調や疲れについて発表する機会を作り、言葉にすることや伝えることに慣れるようにしている。						
	運動・感覚	「静止する演技をする」「相手と協調して演じる」など。演技の中で自然にストップモーションをする演技を取り入れたり、相手役とアクションシーンを演じたりと、その動作に苦手がある子どもでも演劇の中では楽しく取り組んでいる。演劇では、音響や照明によるキッカケを作って、動作への移行のタイミングをわかりやすくすることもでき、子どもに合った段階の取り組みになるよう工夫している。						
	認知・行動	「やりとりのある演技をする」「キッカケで舞台上に登場する」「相手役の失敗を助けたり、助けられたりする経験をする」「各種のコグトレに取り組む」など。相手のセリフを待ったり、自分の出番のキッカケに注意して登場したりが、子どもの特性によって難しい場合がある。台本があり繰り返して練習ができることで、自分で見通しを持って、支援なしでできるようになっていく。また、失敗の苦手な子どもも、徐々に失敗に慣れていくことができる。その他、学校生活・学習で困難を感じている子どもに向け、週2日、コグトレを行っている。						
	言語コミュニケーション	「即興劇で、相手役のセリフを受けて自分のセリフを考える」「スタッフ仕事をメンバーと打ち合わせて進める」「台本を書く」など。音響・照明・舞台装置について、どんな効果音がいいのか、舞台装置は何を作るかなど、自分たちで打ち合わせている。活動中たくさん打ち合わせの機会があり、はじめはスタッフが一緒に入るが、やがて自分たちで進めるようになる。台本を執筆する子どももいる。						
	人間関係社会性	「遅刻するときは連絡をする」「いろいろなメンバーと関わる」「相手の意見を聞く」「他のメンバーに仕事を依頼する」「協働して舞台セットを準備する」「舞台転換を指揮する」など。台本があるため、関わりに苦手がある子どもでも安心して関わりやすい。また、演劇で十分に関わったあとは、そのままの気持ちで自然に遊びに移行する場面がよく見られる。舞台セットの準備や舞台転換で、一緒に物を運ぶなどの機会を設けている。「二人で息を合わせて机を運ぶ」ことが、はじめは難しい場合が多い。						
家族支援		「定期的な相談支援の場を設定する」4月、10月に、相談支援の希望を聞き、個別に気になる点や将来、関り方など広く相談を受けている。			移行支援		「ケース会議が必要な状況があれば、各関係機関に連絡を取るなど連携を行う」ケース会議を開くほどではないケースでも、広く学校や福祉サービスと連携をとり足並みをそろえた支援になるよう心がけている。	
地域支援・地域連携		「演劇療育を軸にした活動を行い、地域に開いた演劇公演を披露する」公演は地域の方も無料で観劇できる。特に8月公演は広報して行う。			職員の質の向上		活動後のミーティングを丁寧に行い、子どもの様子に限らず、活動の進め方や新しいプログラムについて意見を出し合い、検討を進めている。	
主な行事等		「1月一人芝居公演」演劇に限らず、ダンスや歌、絵、映像など、本人の興味のあることを表現する公演。 「3月アトリエ公演」チームで作り上げた芝居の公演。 「5月新人公演」4月に参加したメンバーのいるチームのための新人公演。 「8月本公演」各チームが2日間2公演を行う、広く地域に広報して行う公演。 「9月造形月間」造形作品やゲームなどを行う。 「12月アトリエ公演」チームで作り上げた芝居の公演。						